

第7回

# 

# 阿部一彦教授最終講義

「障害のある人の社会参加と地域生活」

# 資料集

とき 令和 4年 3月 3日 (木) 18時~20時

ところ Zoomによるオンライン開催

中継会場 東北福祉大学 国見キャンパス マルチメディア教室

PROFESSOR'S FINAL LECTURE

# 目 次

挨	挨 拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					•	• 1
次	1. <b>概要紹介 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</b>					•	- 3
	2. 講演(最終講義) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••••	••	<b></b> 会福社	• • 止学和	• 斗)	• g
3.	3.研究等の業績リスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						31
1)	<ul> <li>4. 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	講義)企	· • •	•• 運受才		• •	

#### ごあいさつ

TFU 実学臨床研究セミナーは、昨年 9 月の第 1 回セミナー以来、対人サービスの専門 資格教育等を修了して実践現場で活躍する皆さんを対象に、それぞれの実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組みとして毎月開催して参りました。今回、本年度最後の 3 月セミナーで第 7 回を迎えます。お陰さまで、毎月の研究セミナーの参加登録者は 200 名を越え、またこの企画全体のフォロアーにご登録頂いている方々は約 380 人に及んでいます。講演者の皆さまには毎回密度濃いご講演を頂き、質疑応答・意見交換では示唆に富む多くのご指摘を頂きました。このため参加者の皆さまの満足度も高い状況が続いています。

このように順調にスタートした本研究セミナーを、実行委員会委員長としてこれまでリードして頂いた阿部一彦教授が今月末で東北福祉大学を定年退職をお迎えになります。 1998年から24年の長きにわたり東北福祉大学の教育・研究・運営に貢献された阿部先生ですので、「最終講義」を拝聴したいという声が学内でも高まりました。このような状況を踏まえて、東北福祉大学社会福祉学科教員有志の皆さまとご相談の結果、セミナー実行委員会と教員有志がご一緒に共催して、阿部教授の「最終講義」を開催することといたしました。

最終講義のテーマは、先生が長年取り組んで来られた「障害のある人の社会参加と地域生活」です。先生は、仙台市内の障害者団体による第1回全国障害者スポーツ大会開催、身体障害者の二次障害防止の検診システム確立、障害者差別解消条例策定などで支援者・行政などを巻き込んだ活動で実績をおさめられ、現在、社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会会長としてもご活躍されています。また全国の障害者団体でも、社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会会長、日本障害フォーラム(JDF)代表などの要職を務められ、障害者権利条約や、2020東京オリンピック・パラリンピックを契機として「私たちのことを私たち抜きに決めないで」というスローガンに基づく、各種法改正等に大きな役割を果たされました。

同時に、中央での取組をいかにして地域での実践につなげるかについても心を砕いて来られました。このような取組みからは、ソーシャルワークのメゾ・マクロ実践との深い関わりがあり、先生の取組みから多くのことを学ばせて頂ければと考えております。

このセミナーでは、長年にわたる阿部一彦教授の学内外のご功績に敬意を表するとともに、TFU 実学臨床研究セミナーの立ち上げと発展にご尽力頂いたことを含めて、大学全体の教育・研究・運営の改革や発展にご貢献頂いたことに感謝しながら、阿部教授の最終講義を拝聴したいと思います。

先生は、これからも仙台を拠点にご講演テーマに関連したご活動を継続なさると伺っております。先生からは引き続きのご指導と、本セミナーへのご協力・ご関与をお願いすると共に、今後ますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

阿部先生、長年にわたりたいへんありがとうございました。

2022年3月3日

TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会 実行委員 大島 巌 (東北福祉大学副学長・教授)

## 阿部一彦学科長 最終講義に寄せて

阿部一彦学科長が今年度(2021年度)3月31日をもって定年退職されることとなり、社会福祉学科として有志を募り、TFU実学臨床研究セミナー実行委員会との共催で、最終講義の準備を行ってまいりました。阿部先生は、ご経歴にあるように、平成10年4月に東北大学から本学の社会福祉学部に着任され、感性福祉研究所での研究や、学内では「生命の科学と倫理」「生理学」「障害者福祉論」「実学臨床教育」などの講義を担当されるとともに、実学臨床教育の責任者としてその運営にかかわってこられました。また、令和2年4月から令和4年3月まで、総合福祉学部社会福祉学科長(令和3年度は総合福祉学部長を兼務)を務められ、私たちのリーダーとして社会福祉学科の運営に尽力されました。

阿部先生はそのような学内での様々な業務のほかに、日本身体障害者団体連合会の会長をはじめ、多くの障害者関係団体・組織の要職を担われるとともに、政府や仙台市などの行政施策にかかわる委員等に就かれ、今日の障害福祉施策、障害者の社会参加の推進を牽引されて来られました。そして、それらの功績は多くの組織・団体から顕彰されておられます。まさに、本学の看板教授として長きに渡り、貢献されました。

そのような阿部先生を私たちはとても身近なところで日々接することができ、先生から多くの薫陶を受けることができました。先生は、私たちにいつも気さくに声をかけられ、大学や社会福祉学科を取り巻く諸課題について、常に「一緒に考えていく」という、私たちと同じ目線で向き合っておられました。このことは、あらゆる場面で「対話」を大切にされ、多くの人びとを取り込み、多様な意見や考えを包摂しながら新しいものを創出されようとしている先生の姿勢そのものであるように感じていました。おそらくその姿勢は、先生が障害者福祉の幅広い活動にかかわりながら、それらを通して大切にされてこられたものであると感じると同時に、阿部先生自身が多くの人びとを包摂し、かかわる人が阿部先生の人柄や魅力に感じ入るということがあったのではないかと思います。

この度は、阿部先生の最終講義ということで、先生の魅力を感じ、これまでの先生のご経験をうかがう貴重な機会を得ることができました。ここに、この場だけでなく、これまでの先生の本学でのご貢献に感謝の気持ちを述べさせていただきますとともに、皆さんと一緒に、多くのことを先生から学ばせていただきたく思います。そして、何よりも先生のこれからのますますのご健勝をお祈りし、「阿部先生の最終講義」に寄せての言葉とさせていただきます。

2022年3月3日

社会福祉学科 阿部先生の最終講義の有志 世話人代表 田中 尚

# 1. 概要紹介

# 次第

令和4年3月3日Zoomによるオンライン開催

17:30 開場 ※学内教職員に限り対面による開催(場所:マルチメディア教室1)

17:45 Zoom 入室

18:00 開 式

開会挨拶 総合司会:田中 尚(社会福祉学科 教授)

人と業績 菅原 里江(社会福祉学科 准教授)

18:15 阿部 一彦 教授 講演(最終講義)

「障害のある人の社会参加と地域生活」

#### ○講演趣旨

仙台市内の障害者団体による第 1 回全国障害者スポーツ大会開催、身体障害者の二次障害防止の検診システム確立、東日本大震災前後の取組、障害者差別解消条例策定、地下鉄東西線整備などで支援者・行政などを巻き込んだ活動を紹介します。

さらに障害者権利条約や2020東京オリンピックパラリンピックを契機として「私たちのことを私たち抜きに決めないで」というスローガンをもとに各種法改正など中央障害者団体が果たしてきた役割について検討するとともに、中央の取組をいかにして地域での実践につなげるかについて考えます。

19:25 最終講義セレモニー

代表謝辞 三浦 剛(社会福祉学科 教授)

花束・記念品贈呈など

19:55 閉会挨拶 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員 大島 巌 (副学長)

20:00 閉 式

# 阿部一彦教授 略歴・社会的活動など

#### 教育歴

昭和26年 宮城県岩出山町 (現、大崎市) に生まれる

生後6か月、ポリオにり患、左下肢機能障害

古川小学校(一時期、秋保小学校拓桃園分校)、古川中学校、古川高等学校を経て

昭和53年3月 東北大学歯学部卒業

昭和57年3月 東北大学大学院歯学研究科博士課程修了

歯学博士の学位授与(東北大学・歯博第14号)

平成20年3月 日本社会事業大学大学院後期博士課程退学

昭和53年6月 歯科医師免許(登録番号第73581号)

昭和57年3月 歯学博士の学位授与(東北大学・歯博第14号)

#### 職歴

昭和57年4月 日本学術振興会奨励研究員

昭和57年9月 東北大学歯学部助手

昭和58年7月 米国国立衛生研究所客員研究員

(National Institutes of Health, Visiting Fellow)

昭和60年8月 東北大学歯学部講師

昭和61年1月 東北大学歯学部助教授

平成 10 年 4 月 東北福祉大学社会福祉学部助教授

平成13年4月 東北福祉大学総合福祉学部教授

#### 現在の社会的活動

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会会長

中央障害者社会参加推進センター会長

社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会会長

日本障害フォーラム (JDF) 代表

一般社団法人 ヘルスケアネットワーキングの会理事

社会福祉法人 全国社会福祉協議会障害関係団体連絡協議会会長

社会福祉法人 全国社会福祉協議会評議員

社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会理事

全国ポリオ会連絡会運営委員

仙台ポリオの会会長

社会福祉法人 日本パラスポーツ協会 (旧・日本障害者スポーツ協会) 評議員

東北身体障害者水泳連盟会長

社会福祉法人 日本障害者リハビリテーション協会理事

「新ノーマライゼーション」編集委員会委員

社会福祉法人 共生福祉会評議員

社会福祉法人 仙台市肢体不自由児者父母の会評議員

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団評議員

公益財団法人 テクノエイド協会評議員

一般財団法人 保健福祉広報協会評議員

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構評議員

共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業実行委員会委員

JIS S 0024 高齢者・障害者配慮設計指針-住宅設備機器」改正委員会委員

仙台市障害者自立支援協議会委員

仙台市ひとにやさしいまちづくり推進協議会会長

仙台市防災会議委員

宮城県リハビリテーション協議会委員

内閣府 障害者政策委員会委員

内閣府 防災推進国民会議議員

厚生労働省 社会保障審議会障害者部会委員

厚生労働省 障害者雇用・福祉施策の連携強化に関する検討会構成員

国土交通省 移動等円滑化評価会議委員

国土交通省 移動等円滑化評価会議東北分科会委員

文部科学省 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議・特別支援教育の在り方を踏まえた

学校施設部会委員

【文部科学省委託】「学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組事例集作成等に関する調査研究」 委員

国立国会図書館 図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会委員

#### 以前の社会的活動

仙台市障害者スポーツ協会理事長

仙台市障害者スポーツ協会会長

第1回全国障害者スポーツ大会 大会役員参与

第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会各種委員等

日本身体障害者水泳連盟理事

財団法人 宮城県体育協会理事

仙台市スポーツ振興事業団評議員

仙台市体育協会常任理事・副理事長

財団法人 仙台市スポーツ振興事業団評議員

社会福祉法人 宮城県身体障害者福祉協会理事

社会福祉法人 共生福祉会理事

財団法人 仙台市健康福祉事業団理事

仙台市障害者施策推進協議会会長

仙台市社会福祉審議会委員長

仙台市更生相談所連絡協議会会長

仙台市障害者職業能力開発推進会議委員長

仙台市総合計画審議会委員

仙台市福祉整備審議会委員

仙台市介護保険審議会委員

仙台市スポーツ振興審議会委員

仙台家庭裁判所家庭裁判所委員会委員

宮城県障害者介護給付等不服審査会会長

宮城県福祉有償運送運営協議会委員

宮城県特別支援学校相談員(盲聾養護学校相談員も含む)

仙台市障害者雇用貢献事業者選定委員会委員長

厚生労働省 労働政策審議会障害者雇用分科会委員

厚生労働省・文部科学省 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会

内閣府 令和元年台風第 19 号等を踏まえた高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ 構成員

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業 リビングラボネットワーク定例会議 構成員

内閣官房 ユニバーサルデザイン 2020 評価会議構成員

内閣官房 ユニバーサルデザイン 2020 関係府省庁等連絡会議街づくり分科会構成員

内閣官房 ユニバーサルデザイン 2020 関係府省庁等連絡会議心のバリアフリー分科会構成員

内閣官房 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクセシビリティ競技会

建築部会委員

内閣官房 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクセシビリティ競技会

コミュニケーション・サービス部会委員

国土交通省 全国バリアフリーネットワーク会議構成員

国土交通省 共生社会におけるトイレの環境整備に関する調査研究検討会構成員

文部科学省 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議委員

【厚生労働省委託】よりそいホットライン効果測定委員会委員

#### 賞 罰

平成 21 年 2 月 14 日 宮城県体育協会会長表彰 体育功労賞

平成22年7月5日 仙台市長表彰 永年勤続委員

平成23年11月2日 宮城県教育功労者表彰 社会教育

平成 28 年 11 月 8 日 宮城県教育文化功労者表彰

平成29年7月3日 仙台市市政功労者表彰 社会福祉

平成29年12月5日 厚生労働大臣表彰 福祉事業

令和元年 10 月 14 日 文部科学大臣表彰 スポーツの普及

令和3年11月18日 仙台市特別市政功労者表彰 社会福祉

# 2. 最終講義

# 障害のある人の社会参加と地域生活

(社福)仙台市障害者福祉協会会長 (社福)日本身体障害者団体連合会会長 日本障害フォーラム(JDF)代表 東北福祉大学総合福祉学部教授 阿部一彦

1

1945~1970 戦後の混乱から経済の立ち直りの時代 1964 東京オリンピック・東京パラリンピック 日本選手は入所者?病人? → 地域生活への希望

1970~1990 保護の時代・社会福祉施設整備の時代

1981 国連・国際障害者年 地域生活の大切さ

1990~2010 自立支援の時代・在宅福祉サービス整備の時代 2006 障害者自立支援法施行

「生活の充実」「心の豊かさ」に価値をおく成熟型時代へ 2009(2010)~ 障害者権利条約締結のための条件整備へ

2011.3 東日本大震災

2011 障害者基本法改正 2013 障害者総合支援法施行

2014.1 障害者権利条約批准

2016 障害者差別解消法施行・改正障害者雇用促進法施行

2021.8~9 東京オリンピック・パラリンピック 「2020東京オリパラ」2022.8~9(予定) 国連・障害者権利委員会による建設的対話 そして、総括所見(勧告)

# わが国における社会変革の大きな機会

国連障害者権利条約

⇒障害者基本法 障害者施策の在り方 障害者差別解消法等 障害者差別禁止条例

私たちのことを私たち抜きに決めないで!

2020東京オリンピック・パラリンピック大会 ⇒ユニバーサルデザイン2020行動計画 ユニバーサルデザインの街づくり・心のバリアフリー

オリパラのレガシー(好ましい遺産)による共生社会の実現

「地方分権の観点から」という背景のもと

各地域で誰にも暮らしやすい地域づくりを実現するためには、 身近な場における取組が重要

- ▶ (1)東北福祉大学に移ってから取り組んできたこと
  - (2)東日本大震災への対応
  - (3)障害者権利条約の影響
  - (4)社会変革の大きな機会
  - (5)これから取り組みたいこと

# 福祉のまちづくりは仙台市からはじまった

## 「まちになれろ、まちがなれる」

#### 東北福祉大学生ら

福祉のまちづくりのきっかけ



1970 生活圏拡張運動(車いす使用者と学生・市民による活動) 車いすでまちに出る

歩道段差の解消、車いす使用者用トイレの整備

1973

第1回車いす市民全国集会(仙台市)

身体障害者福祉モデル都市設置事業(第1号:仙台市)

5

# 東北福祉大学に移って取り組んだこと

# 東北福祉大学で行いたかったこと

障害者によるスポーツ活動の可能性 やってみればできる

・第1回全国障害者スポーツ大会開催(2001)準備

実行委員会の中で

グランディ21(プール)施設 青写真段階からの協議 仙台市障害者スポーツ協会の活動

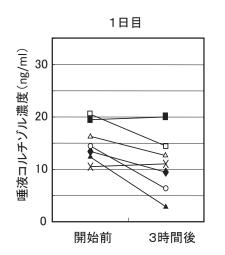
仙台市障害者保健福祉計画に書き込むことの意義 元気フィールドのスポーツ施設へのバリアフリー化に関する

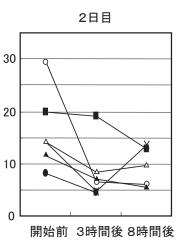
要望活動と実現(2006.1)

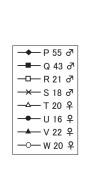
・ポストポリオ症候群(遅発性ポリオ後症候群)

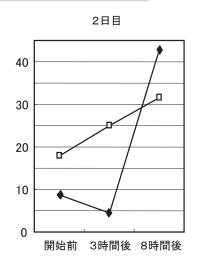
ポリオの二次障害への対応 障害は進行しないと考えていたのに セルフヘルプグループ活動 頑張りすぎないことの大切さ 検診システムの確立 宮城県リハビリテーションセンターの事業へ 障害とともに健康な生活 病気とともに健康な(元気な)生活

#### 2000シドニーパラリンピック(卓球)出場者の強化合宿(東北福祉大学)









知的障害者の卓球強化合宿における練習前後の唾液コルチゾル濃度

唾液コルチゾル濃度が上昇した例

好きなことに取り組むと、コルチゾル濃度(ストレス指標)が低下する

7

コルチゾル濃度が上昇した人は

体育の授業はいつも見学、何の不思議にも思わなかった 卒業後にスポーツ やってみれば、できるのに 子どもの頃からスポーツに親しんでいたら、 どんなにか違った生活を送れただろう

# 障害者にとってのスポーツとは

できなかったのではなく、させられなかった・・・だけ できなかったのではなく、しなかった・・・だけ

> 行ってみれば親しむが、 スポーツに無縁な障害者も多い

第1回全国障害者スポーツ大会(2001)への取組 障害者スポーツ施設(2007.6)の開設 ポリオ体験者が40歳代頃に あらたに筋力の低下、筋肉の萎縮、 筋肉・関節の痛み、しびれ、異常な疲れやすさなど (1980年代にアメリカで、1990年代に日本でも問題視)

アメリカ合衆国・・・・・

セルフヘルプグループ・サポートグループと 医療体制(ポストポリオクリニック)の連携 ポストポリオ症候群(PPS)と診断され、 (ポスト)ポリオクリニックなどで加療・フォローアップ

セルフヘルプグループは形成されつつあったが、 医療体制の欠如

障害に十分に配慮した適切な医療体制の確立 ポリオの医療専門家は既に現役を退き、医学教育でもほとんどとりあげられない 障害者検診事業 (宮城県リハビリテーションセンターの事業に)

C

# 二次障害の予防をはかるためには

- ○生活スタイルの改善 「自らの健康は自らが守る」という自覚 無理を重ねてがんばるというライフスタイルを見直す必要性
- ○周囲の環境の改善 適応しにくい交通・移動環境、住環境、建築物、道路、椅子など の家具類などにおけるバリアを取り除くこと 適切な補助具の使用と周囲の環境を積極的に改善すること 生活・就労などの社会環境の改善を図ることが重要

誰もが暮らしやすい街づくり・社会づくり

- (1) 東北福祉大学に移ってから取り組んできたこと
- (2)東日本大震災への対応
  - (3)障害者権利条約の影響
  - (4)社会変革の大きな機会
  - (5)これから取り組みたいこと

# 東日本大震災前の障害当事者団体の取り組み

約35年周期に大きな地震(宮城県沖地震·M7.4規模)発生 当事者団体も防災・減災への高い関心

大学ボランティアセンターの呼びかけで、障害種別団体毎に支援の必要性や災害時の対応について検討(2005~)

各当事者が執筆して災害時要援護者支援マニュアルの発行協力

災害時障害者専門ボランティアの養成・登録事業(2005~)

仙台市障害者保健福祉計画に記載(2006~)

福祉避難所設置に係る協力協定の締結(2008~)

山形県身体障害者福祉協会(災害時相互応援協定)(2008~) 等

しかし、東日本大震災(M9.0)は想定の規模を はるかに超えた地震・津波(死者・行方不明者18,429人)

# 東日本大震災発生後の障害当事者団体の取り組み

加入団体の会員·個人会員や協会のサービス利用者の安否確認活動 (名簿管理の重要性)

福祉避難所(3ヶ所)の運営(協力協定締結 2008~)

災害時障害者専門ボランティアの活動

情報支援活動(情報の収集、加工、発信) 多くのボランティア

文字版、点字版、要約筆記版、音声朗読版、メーリングリスト版(各19号まで)

県内外から多くのボランティア・支援員の受け入れ JDF(日本障害フォーラム)、福岡市や山形県身障協会、日身連、他法人、 市民・学生等

仙台市障害者福祉協会を構成する各団体、そして 地元の他団体もそれぞれの特性に応じた活動を行った

国連防災世界会議(2015) パブリックフォーラム等の開催

13

# 宮城県内外の団体による支援活動

- 3月23日 JDF(日本障害フォーラム)と地元の障害者団体との意見交換会 被災障害者を支援するみやぎの会発足(代表及び事務局)
- 3月30日 JDFみやぎ支援センター(代表)(仙台市内に)開設 約1週間単位で交替する支援員の引継ぎ(毎日約40名前後) 障害者施設の被災状況の調査と再建支援 障害者の個別的ニーズに対する支援(個人情報保護の壁)
- その後、難民を助ける会等も含め、情報交換会を繰り返す
- ニーズの確認・地元団体の役割の確認等 行政組織等との情報交換、国・自治体への要望活動

福祉サービスも利用せず、障害者団体にも属さない多くの障害者の情報は 把握困難

> 4月6日 JDF支援センターふくしま(郡山市)開設 9月22日 JDF支援いわて本部(盛岡市)開設

#### 情報不足に対する対応

被災障害者を支援するみやぎの会の活動 (情報を共有するゆるやかなネットワーク) JDFみやぎ支援センターや難民を助ける会等との情報交換会 当初、地元障害者団体は窮状や前途の不安を訴えたが、 次第に、他団体の被災状況や取り組み等を知り、 団体同士の連携、情報交換等の重要性を認識

さらにネットワークの力を生かして 今後の復旧、復興に向けて自治体、国への要望 復興計画、障害者計画の策定時に主体的に参画すべきこと 等が議論

仙台市障害者福祉協会関係団体・関係者へ 仙台市災害対策本部が発行する「被災された方のための生活 支援情報」等を会報「仙障だより」号外として発信

墨字版、点字版、音声版、メーリングリスト版(それぞれ19号まで) 各ボランティアの方々の活動

# 障害のある人々は東日本大震災によって大きな被害

障害のある人々の死亡率は全住民の死亡率の2倍以上あった 障害のある人々は、避難行動に困難が大きかった 障害のある人々は、指定避難所に避難できなかった 障害のある人々は、避難生活でとても大きな困難を強いられた 障害のある人々は、孤立することが多かった

福祉サービスも利用せず、障害者団体にも属さない多くの障害者の情報は把握困難(つながることが困難)

つながりがないために大きな困難

地域に住んでいる障害のある人々は地域の人々とつながることがたいせつ

平時(普段の生活)・非常時(災害時)ともに今後の大きな課題

令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難に関する サブワーキンググループ最終とりまとめ(2020年12月)

- (1) 避難行動要支援者名簿
  - ①名簿の範囲の整理
  - ②運用の在り方に関するそのほかの論点
- (2)個別計画
  - ①制度の在り方
- (3)福祉避難所等
  - ①避難先の在り方
- (4)地区防災計画
  - ①地区防災計画の在り方

- (1) 東北福祉大学に移ってから取り組んできたこと
- (2)東日本大震災への対応
- (3)障害者権利条約の影響
  - (4)社会変革の大きな機会
  - (5)これから取り組みたいこと

# 障害者権利条約をもとに

障害者権利条約

2006国連総会で採択 2009~/ 2014締結

**障害者基本法** 2011改正/2011施行

基本的人権 個人の尊書 原書者の 管書者の 範囲の拡壁 の除去 差別の禁止、合理的配慮不提供禁止 障害及び障害者理解の促進

障害者差別解消法

2013成立/2016施行 2021改正

障害者雇用促進法 2013改正/2016施行 2019, 2020改正

バリアフリー法

2018改正/2018施行 2020改正/2021施行

2016改正/2018施行

障害者総合支援法 2012改正/2013施行

児童福祉法 2014改正/2015施行 2016改正/2018施行 社会的障壁の除去 差別の禁止 合理的配慮不提供 の禁止 社会環境の改善

障害福祉サービス

暮しづらさの改善

障害児福祉サービス

19

3年1期として地方自治体で計画作成

障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備をはじめとする制度の 集中的な改革により (2009年12月~)

> 障がい者制度改革推進会議(~平成24年3月) 障害者政策委員会における検討(平成24年~)

私たちのことを私たち抜きに決めないで!

平成23年(2011)の改正前の障害者基本法では、

障害者は「身体障害、知的障害又は精神障害(以下「障害」と総称する。)があるため、継続的に日常 生活又は社会生活に相当な制限を受ける者」と規定

平成23年(2011)の改正では、

障害者は「身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(以下「障害」と総称する。)がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と規定

障害の 社会モデル 「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているので、 社会的障壁を取り除くのは社会の責務

# 社会的障壁とは

社会における事物 (通行、利用しにくい施設、設備など)

制度 (利用しにくい制度など)

慣行 (障害のある人の存在を意識していない慣習、文化など)

観念 (障害のある人への偏見など) 心の壁(心のバリア)

# 障害の 社会モデル

「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の 相互作用によって創り出されているので、 社会的障壁を取り除くのは社会の責務



# 社会的障壁を解消する活動が重要

社会的障壁を取り除いて誰もが暮らしやすい社会づくり

21

# 障害理解と障害者理解

障害によってどのようなことが不便なのか、困っているのかの 理解だけではなく、

不便なこと、困っていることに対してどのような配慮が必要な のかについての理解をすすめ、

過重な負担にならない限りにおいて、必要な配慮を当たり前に行うこと(合理的配慮)

必要な配慮については当事者本人が伝える

当事者本人の立場に立って伝える

障害者差別解消法を多くの住民を巻き込むツールにして

誰もが暮らしやすいまちづくり

# 障害者差別解消法

(2013年6月に制定、2016年4月施行)

2021年6月改正



【目的】全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害者差別の解消を推進すること

現在 基本方針の検討

禁止されるのは「不当な差別的取り扱い」と「合理的配慮の不提供」

「不当な差別的取扱い」とは、

障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスや 各種機会の提供を拒否し又は制限、障害者以外の人には付けな い条件を付けることにより、障害者の権利利益を侵害する行為。

「合理的配慮」とは、

障害者が社会的障壁の除去を必要としている場合、当該除去の 実施に伴う負担が過重でないときは、性別、年齢及び障害の状況 に応じて、必要かつ合理的な変更、調整を行うこと。

23

障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限 を受ける状態にあるもの (障害者基本法・障害者差別解消法)

# 社会的障壁を除去するためには

アクセシビリティを提供する義務 環境の整備 事前の、全体を対象とした義務、漸進的な実施義務 ユニバーサルデザインや支援技術を通じて提供する事前の義務

合理的配慮を提供する義務 即時的義務 個別の、問題発生後に対応する義務

アクセシビリティの漸進的な実現には時間がかかる場合があるため、個人に当面の利用の機会を提供する一手段として、合理的配慮が使用されることがある

平等及び無差別に関する一般的意見第6号(第5条関係) 障害者権利委員会

#### 合理的配慮とは

JR線、仙台市地下鉄南北線:携帯スロープ

不特定多数の障害者を主な対象として行われる 事前の改善措置とは

仙台市地下鉄東西線:携帯スロープなしで乗降

# 設計段階から 当事者の声を反映









車両内車いすスペース手すりには、 障害者の方の意見を採りいれ、 縦手すりを追加しています。

災害時に困難を感じた当事者の要望をもとに整備した 津波避難タワーなどの取り組み



# 南蒲生津波避難タワー

高さ:2階部分避難スペース 6m

最上階避難スペース 9m

備蓄品:簡易トイレ3台、発電機1台、 防災行政用無線1台、毛布·非常食·飲 料水 各250人分 収容人員:約250人

(仙台市役所ホームページから)

バリアフリー化された津波避 難タワーなどによる、高齢者・ 障害者などにも対応した面的 避難エリアの実現 仙台市



車いすで津波避難タワーへ避難 仙台市内6か所に津波避難タワー

# 障害者差別禁止条例づくりの重要性

国の施策



地域の施策 地域のニーズ

私たちのことを私たち抜きに決めないで!

地方分権

地域レベルの活動があってこそ、私たちの暮らしに影響 地域における多くの当事者団体、地域の団体の連携 障害のある市民と障害のない市民とのつながり、支え合い

仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない 人も共に暮らしやすいまちをつくる条例(2016年4月1日施行)

- (1) 東北福祉大学に移ってから取り組んできたこと
- (2)誰もが暮らしやすい街づくり
- (3)障害者権利条約の影響
- (4)社会変革の大きな機会
  - (5)これから取り組みたいこと

# 2020東京オリンピック・パラリンピック(2021年7月23日~8月8日、8月24日~9月5日)

# 「ユニバーサルデザイン2020行動計画」

障害のある選手たちが素晴らしいパフォーマンスを見せる2020パラリンピック競技大会は、共生社会の実現に向けて人々の心の在り方を変える絶好の機会

# 共生社会の実現に向けた大きな二つの柱

ユニバーサルデザインの街づくり 誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインの街づくり 心のバリアフリー

社会全体の人々の心の在り方を変えていくことが重要

#### 障害の社会モデル

「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているので、社会的障壁を取り除くのは社会の責務

29

# 「心のバリアフリー」の具体的な取組

# 1)学校教育における取組

- ① すべての子供達に「心のバリアフリー」を指導
- ②すべての教員等が「心のバリアフリー」を理解
- ③障害のある人とともにある「心のバリアフリー」授業の全面展開
- ④障害のある幼児・児童・生徒を支える取組
- ⑤高等教育(大学)での取組

# 2)企業等における「心のバリアフリー」の取組

- ①企業等における「心のバリアフリー」社員教育の実施
- ②接遇対応の向上
- ③障害のある人が活躍しやすい企業等を増やす取組

# 3)地域における取組

- ①地域に根差した「心のバリアフリー」を広めるための取組
- ②災害時における避難行動要支援者に配慮した避難支援の在り方
- ③その他

内閣オリパラ事務局

# 「心のバリアフリー」の具体的な取組

## 4)国民全体に向けた取組

- ①障害のある人とない人がともに参加できるスポーツ大会等の 開催を推進
- ②特別支援学校を拠点としたスポーツ・文化・教育の祭典を実施
- ③国民全体に向けた「心のバリアフリー」の広報活動

#### 5) 障害のある人による取組

「障害の社会モデル」を踏まえて自らの障害を理解し、社会的障壁を取り除く方法を相手に分かりやすく伝えることができるコミュニケーションスキルを身に付けることが重要そのために障害のある人自身やその家族を支援する必要

内閣オリパラ事務局

31

# わが国における社会変革の大きな機会

#### 国連障害者権利条約

⇒障害者基本法 障害者施策の在り方 障害者差別解消法等 障害者差別禁止条例

私たちのことを私たち抜きに決めないで!

オリンピック・パラリンピック東京大会 ⇒ユニバーサルデザイン2020行動計画 ユニバーサルデザインの街づくり・心のバリアフリー

オリパラのレガシー(好ましい遺産)による共生社会の実現

# 「地方分権の観点から」という背景のもと

各地域で誰にも暮らしやすい地域づくりを実現するためには、 身近な場における取組が重要

## 差別解消のための仙台市条例づくりについて

2014年6月25日に諮問、そして2015年12月28日答申

国の施策



地域の施策 地域のニーズ

地方分権

私たちのことは私たち抜きに決めないで! 市民の関心を高め、幅広い理解を得ながら進める





仙台市障害者 施策推進協議会

仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人もともに 暮らしやすいまちをつくる条例 (2016年4月1日施行)

33

障害者の権利条約、障害者差別解消法等の理解を広め、「仙台市条例」を活用して 誰もが暮らしやすく、幸せを感じられる社会を

地域レベルでの活動があってこそ、私たちの暮らしに影響 地域における多くの当事者団体、地域の団体の連携 障害のある住民と障害のない住民とのつながり、支え合い

> 『仙台市条例』づくりをとおし、そして活用して 基本ルールである法律の上乗せ・横出し、 そして地域らしさをもとに障害理解の促進等で 暮らしやすいまち・仙台づくり

みんなで互いに巻き込み、巻き込まれて、 相互理解と連携のみんなのためのまちづくりを

- (1) 東北福祉大学に移ってから取り組んできたこと
- (2)東日本大震災への対応
- (3)障害者権利条約の影響
- (4)社会変革の大きな機会
- |(5)これから取り組みたいこと

# 今後、取り組みたいこと

コロナ禍の中で社会参加活動が停滞 自己効用感の低下 生活不活発病(廃用症候群)の問題 孤独・孤立の問題 前途に希望と目的を持つことができない環境 とくに一人暮らしの障害のある人

# オリパラのレガシーとしての活動

国連障害者委員会による日本審査の総括所見をふまえた活動 当事者団体の活動をもとに、地域の人々、企業、行政の連携の重要性 社会的障壁の除去に取り組んで、誰もが暮らしやすい社会づくり

# 東京だけではなく、日本全体、全国各地で 2020オリパラはどのようなレガシーを遺すのか

障害のある人もない人も互いに尊重し、 支えあう共生社会の実現

2020オリパラに向けて障害当事者、企業、国民、行政が一体となった取組自体をレガシーの一つに

オリパラのレガシーをふまえ 多くの人々、多くの団体、行政などを巻き込んで 誰もが暮らしやすい共生社会の実現

37

# かつては中央集権体制、現在は地方分権

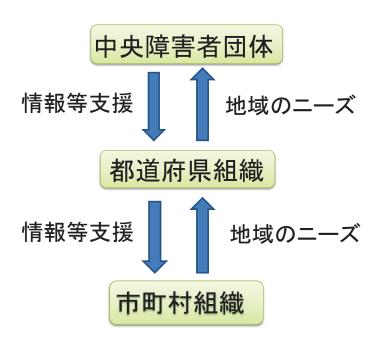
国の施策地域の施策地域のニーズ

私たちのことを私たち抜きに決めないで!

中央障害者団体が政府や国民へ働きかけ 地域で活動する障害者団体がそれぞれの地域で、 地方自治体や地域の人々へ働きかけ

地域レベルの活動があってこそ、私たちの暮らしに影響 地域における多くの障害当事者団体、地域の団体の連携 障害のある住民と障害のない住民とのつながり、支え合い

# 全国組織のネットワーク



全国規模団体との連携 行政(国)・政党 各種要望、各種法律・制度策定 各種計画策定・監視等

都道府県·政令市 各種要望、計画策定·監視等 障害者計画、障害福祉計画等

市町村とのかかわり 各種要望、計画策定・監視等 障害者計画、障害福祉計画等

39

# 日本における障害者権利条約(2006年国連総会採択)に関する取り組み

2014年1月 障害者権利条約批准

2016年6月 国連へ政府報告提出

2019年9月 障害者権利委員会において

事前質問事項のセッション

市民社会組織から事前質問事項に関するパラレルレポート

障害者権利委員会から事前質問事項

政府の回答

2022年8月~9月

障害者権利委員会において建設的対話(国家審査)

市民社会組織から建設的対話に向けたパラレルレポート そして総括所見(勧告)公表

総括所見をもとにわが国の障害者施策の改善・向上

誰もが元気に生きがいをもって生活を営むためには、人々が集まり、互いに支え合って活動することが大事

「でかける機会」 「でかける場所」 「でかけるための移動手段」

障害者団体・当事者の会の役割 会員の互助によって、一人一人の自助力向上 元気に生きる力、健康の維持 ピアサポート

自らの社会的障壁を適確に伝え、合理的配慮、環境の整備 多くの人々、多くの団体を巻き込む活動

41

# 「障害のない人」に基準を合わせた社会

日常生活又は社会生活に過度の制限・無理のしいられる社会

オリパラのレガシー 国家審査の総括所見



多くの地域の人々、地域団体、企業などを巻き込んだ活動

現在、そしてこれからの社会 障害のある人々(不便を感じている人々)に 基準を合わせた社会 社会的障壁の除去

高齢者、妊婦さん、ベビーカーを押したお母さん、ケガなどによる一時的障害者を含めて

誰もが暮らしやすい共生社会の実現

# 3. 研究等の 業績リスト

# 阿部一彦教授 研究論文等の業績リスト

#### 1982

- 1) Purification and properties of pyruvate kinase from Streptococcus mutans. 共著 J. Bacteriol. 149: 299-305
- 2) Purification of pyruvate formate-lyase from <u>Streptococcus mutans</u> and its regulatory properties. 共著 J. Bacteriol. 149: 1034-1040
- 3) Involvement of oxygen-sensitive pyruvate formate-lyase in mixed acid fermentation by <u>Streptococcus</u> mutans under strictly anaerobic conditions. 共著 J. Bacteriol. 152: 175-182

#### 1983

4) Purification and properties of pyruvate kinase from <u>Streptococcus sanguis</u> and activator specificity of pyruvate kinase from oral streptococci. 共著 Infect. Immun. 39: 1007-1014

#### 1985

- 5) Effects of oxygen on pyruvate formate-lyase in situ and sugar metabolism of <u>Streptococcus mutans</u> and <u>Streptococcus sanguis</u>. 共著 Infect. Immun. 47: 129-134
- 6) Anaerobic and aerobic metabolism of sorbitol in <u>Streptococcus sanguis</u> and <u>Streptococcus mitior</u>. 共著 J. Dent. Res. 64: 1286-1289
- 7) Inactivation of pyruvate formate-lyase of <u>Streptococcus mutans</u> by oxygen and an improved method to measure the activity of oxygen-sensitive enzymes. 共著 Jpn. J. Oral Biol. 27: 949-955

#### 1986

8) Role of NADH oxidase in the oxidative inactivation of <u>Streptococcus salivarius</u> fructosyltransferase. 共著 Infect. Immun. 54: 233-238

#### 1987

9) Oxygen sensitivity of sugar metabolism and interconversion of pyruvate formate-lyase in intact cells of <u>Streptococcus mutans</u> and <u>Streptococcus sanguis</u>. 共著 Infect. Immun. 55: 652-656

#### 1990

10) NADH oxidase and Cu<sup>2+</sup>-mediated oxidative inactivation of <u>Streptococcus</u> <u>salivarius</u> fructosyltranferase. 共著 Infection and Immunity (Life Sci. Adv.), 9: 55-63

#### 1991

11) Oxygen and the sugar metabolism in oral streptococci. 共著 Proc. Finn. Dent. Soc. 87: 477-487

#### 1992

12) Acid production by streptococci growing at low pH in a chemostat under anaerobic conditions. 共著 Oral Microbiol. Immunol. 7: 304-308

#### 1995

13) むし歯を予防する唾液の働き、共著 治療 77:2276-2277

- 14) Cloning and sequence analysis of the <u>pfl</u> gene encoding pyruvate formate-lyase from <u>Streptococcus</u> mutans. 共著 Infect. Immun. 64: 385-391
- 15)日本で市販されている小児用シロップ液状総合感冒剤の歯垢内酸産生性 共著 東北大学歯学雑誌 15:163-170
- 16) みやぎにおける障害者スポーツの取り組みー地域社会のノーマライゼーションの実践に向けて一 共著 日本の社会教育実践、社会教育推進全国協議会 115-118
- 17)「みやぎ」における身体障害者のスポーツ実践-自主サークル活動からノーマライゼーションを考える-単著 学校体育 1996/4 66-69

#### 1997

- 18) 食品の齲蝕誘発性の評価-歯垢 pH 測定試験- 単著 歯界展望 90:650-654
- 19)う蝕の病因解明-in vitroの実験う蝕モデルによる最近の知見- 共著 歯界展望 89:655-664

#### 2000

- 20)口腔機能からさぐる感性福祉の研究 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 1:29-39
- 21) 身体動作・身体活動からさぐる感性福祉の研究. 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 1:40-51
- 22) 宮城・仙台における障害者スポーツの現状と課題 当事者からみた地域における障害者スポーツ活動 単著 日本障害者体育・スポーツ研究会研究紀要 24:1-7

#### 2001

- 23) Rate-limiting steps of glucose and sorbitol metabolism in <u>Streptococcus mutans</u> cells exposed to air. 共著 Oral Microbiol. Immunol. 15: 325-328
- 24) Inhibitory effect of sorbitol on sugar metabolism of <u>Streptococcus mutans in vitro</u> and on acid production in dental plaque <u>in vivo</u>. 共著 Oral Microbiol. Immunol. 16: 94-99
- 25) 食品のむし歯誘発性とむし歯を防ぐ唾液の働きに関する研究 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 2:75-84
- 26) 音楽のジャンル別聴取に伴う内部環境の変化に関する研究 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 2:39-44
- 27) 車椅子ダンスの心と体に及ぼす影響 共著 東北福祉大学社会福祉研究室報 11: 73-95
- 28) 歯科医療と介護福祉領域との連携 共著 日本歯科評論 61:149-156
- 29) 唾液中のコルチゾル、分泌型 IgA の変動からさぐる感性福祉の研究 共著 東北福祉大学感性福祉研究所 年報 2:65-74
- 30) 口腔内 pH 電極内蔵法によるチューインガムの酸蝕性およびとト歯垢における酸産生性の検討 共著 日本食品新素材研究会誌 4 pp.13-19

- 31)障害者の自立と社会参加を促進するセルフヘルプグループに関する一考察—ポストポリオ問題を背景として - 単著 社会福祉論叢(日本社会事業大学大学院) 2002 1-23
- 32) 障害者の二次障害に関する諸問題—脳性小児麻痺(CP)と脊髄性小児麻痺(ポリオ)を例に一 単著 東北福祉大学社会福祉研究室報 12:10-17
- 33) 歯科医療と介護福祉領域との連携 ホームヘルパーの歯科に関する意識と諸問題 共著 高齢者歯科医療談話会誌 5:67-75

- 34) 唾液コルチゾルの変動を指標としたストレス評価とその応用—障害のある人々のスポーツ活動を例に一 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 3:75-79
- 35)口腔ケアによる要介護度の改善効果 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 3:81-88
- 36)介護老人保健施設「せんだんの丘」における口腔ケアの取り組み一常勤歯科衛生士の配置とその役割一 共著 高齢者歯科医療談話会誌 5:60-66
- 37)パラリンピック出場者の強化合宿における生体負担度から見た快・不快の疎通についてー 熟練者と初級者の比較から一 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 3:11-21
- 38) Biochemical and physiological examination of intellectually disabled table tennis players. 共著 Table Tennis Sciences 4,5:61-67

- 39) 実験的に実施した快・不快刺激の尿中 17-KS、17-OHCS、唾液 Cortisol 値に及ぼす影響. 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 4:17-27
- 40) Biochemical and functional properties of pyruvate formate-lyase (PFL)-activating system in Streptococcus mutans. 共著 Oral Microbiol. Immunol. 18: 293-297
- 41) 障害のある人々のスポーツ活動におけるストレス状況把握に関する検討 共著 東北福祉大学研究紀要 27:91-104
- 42) ポリオおよびポストポリオ問題に関する社会福祉学的研究 単著 社会事業研究 42:114-116

#### 2004

- 43)要介護高齢者の口腔ケアに関する研究-施設ケアワーカーへの聞き取り調査- 共著認知症介護研究・研修仙台センター研究年報 101-114
- 44)要介護高齢者のう蝕多発要因と口腔ケアの分析 共著 高齢者歯科医療懇話会誌 7(1):38-43

#### 2005

- 45) 肢体不自由(児)者のための顎運動を用いた入力装置の試作 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 6:215-218
- 46)介護老人保健施設「せんだんの丘」における口腔ケアの取り組み―生活支援としての口腔ケアを目指して 共著 高齢者歯科医療懇話会誌 8(1):10-14

#### 2006

- 47) 身体障害者を対象とした実践の立場から一地域における障害者スポーツの普及活動 単著 リハビリテーションスポーツ(医療体育研究会) 25(1):27-28
- 48) 要介護高齢者の口腔乾燥症の現状と対策―キシリトールタブレットによる試み― 共著 高齢者歯科医療懇話会誌 9(1):29-35
- 49)生命科学的背景から考える「社会福祉と感性」 単著 社会福祉学 47(1):71-74
- 50)介護施設と歯科医療を結ぶ施設常勤歯科衛生士の役割—入所利用者の歯科受療支援を含む口腔ケア— 共著 老年歯科医学 20(4):343-349

#### 2007

51)仙台市障害者施策推進協議会の取り組みの経過と今後の課題 単著 響き合う街で(主体化をもとにした協働の実践) 41:25-31

52) 身体に障害がある方の健康づくりの運動に関する現状と課題〜健康状況に関する調査より 共著 公衆衛生情報みやぎ 393:10-13

#### 2010

53) 障がいのある人の健康と社会参加 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 11:35-49

#### 2011

- 54)障害当事者団体の支援活動の中から総合リハビリテーションの在り方を考える 単著 リハビリテーション研究 149:4-8
- 55) 障がいのある人の健康増進と社会参加に関するニーズ 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 12:55-68
- 56) 東日本大震災と障害当事者団体 単著 ノーマライゼーション 31(7):32-33

#### 2012

57) 東日本大震災後の障害者団体の一年と復興に向けたこれからの課題 単著 リハビリテーション 543:29-32

#### 2014

- 58) 東日本大震災後に開設された仙台市内の福祉避難所に関する検討―障害者のための福祉避難所の課題― 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 15:107-118
- 59) 東日本大震災における障害者団体の取り組み 共著 東北福祉大学感性福祉研究所年報 15:119-130

#### 2015

60) 宮城県における障害者支援 —地域の障害当事者活動の巻き込み力— 単著 リハビリテーション研究 162:22-25

#### 2018

61) 東日本大震災を体験した仙台市内の障害者防災の現状と課題 単著 リハビリテーション 603:11-14

#### 2019

- 62)仙台市障害者スポーツ協会の取り組み 共著 月刊社会教育 754:59-62
- 63) 日本障害フォーラム(JDF) における特別委員会の設置とその取り組みの意義 単著 要約筆記問題研究 30:21-26
- 64) 障害者権利条約パラレルレポートとこれからの障害者福祉 単著 月刊福祉 9:50-51

#### 2020

65) インクルーシブ防災を目指した地域づくり 単著 Re 建築/保全 207:64-65

- 66)コロナ時代の新しい障害者福祉 単著 新ノーマライゼーション 2021/1:2-3
- 67) 地域に根ざしたインクルーシブ防災 単著 消防防災の科学 145:20-23
- 68) Social Participation of Persons with Disabilities under the COVID-19 Pandemic 単著 ICSW North East Asia Newsletter vol.8:6-9

# 4. 資料

## ◆【月例】TFU 実学臨床研究セミナー開設の趣旨

こんにち家族や地域社会が変化し多様化する中で、人々の幸せやより豊かな生活を願い、複雑化する支援 ニーズに向き合う対人援助の専門職の皆さんは、絶えず新しい知識を身に付け、成長し、新しく生じる問題に 対応する力量を身に付けることが求められています。

「行学一如」を建学の精神とする東北福祉大学(TFU)は、実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組み、月例「実学臨床研究セミナー」を開催することにいたしました。福祉現場など実践の場のイマを見つめ、これから求められる対人専門職人財の育成や成長、キャリア形成を考える機会になれば幸いです。

# ◆ 2022 年度のスケジュール 【予定】

#### ※テーマ・日程は変更される場合もございます

	月	テーマ / 講師	
8	4/28	触法障害者の『入口支援』を巡る課題を考える 田中 尚氏(東北福祉大学総合福祉学部 教授)	
9	5/20	認知症の人と家族の一体的支援 矢吹 知之 氏(東北福祉大学総合福祉学部 准教授)	
10	6/23	病院から地域にむけた多職種連携 中村 令子 氏 (東北福祉大学健康科学部 教授)	
11	7/28	生活困窮者支援を考える 阿部 裕二 氏(東北福祉大学総合福祉学部 教授)	
12	8/20	孤立孤独対策を考える ★コラボ企画 宮城県社会福祉士会 宮城県精神保健福祉士協会 宮城県医療ソーシャルワーカー協会	
13	9月以降	特別支援教育/ダイバーシティ 大西 孝志 氏(東北福祉大学教育学部 教授) 施設における高齢者虐待 吉川 悠貴 氏(東北福祉大学総合福祉学部 准教授) 被災地における子ども支援 清水 冬樹 氏(東北福祉大学総合福祉学部 准教授) など	

## ◆ 企画・運営:TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

【お問い合せ】 東北福祉大学 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会事務局(実学臨床教育推進室内)

TEL 022-717-3359 FAX 022-301-1293

E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp ※平日8:30~17:30までにお願いします(土日・祝日不在)

#### 資料2

# 第7回TFU実学臨床研究セミナー(阿部一彦教授最終講義) 「障害のある人の社会参加と地域生活」 実施・運営体制

#### ○ 社会福祉学科教員有志

#### 【世話人代表】

田中 尚 (社会福祉学科 教授)★

#### 【世話人】

相場 恵 (社会福祉学科 講師) 石附 敬 (社会福祉学科 准教授)★ 君島 昌志 (社会福祉学科 准教授) 黒田 文 (社会福祉学科 教授)

菅原 里江 (社会福祉学科 准教授) 関川 伸哉 (社会福祉学科 教授)

竹之内 章代 (社会福祉学科 准教授)★ 芳賀 恭司 (社会福祉学科 准教授)★

眞嶋 智彦 (社会福祉学科 准教授)

★TFU実学臨床研究セミナー実行委員を兼ねる

#### ○ TFU実学臨床研究セミナー実行委員会

#### 【委員長】

阿部 一彦 (社会福祉学科 教授)

#### 【学外委員】

中里 仁 (社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜 総合施設長)

野田 毅 (社会福祉法人東北福祉会 本部事務局 次長/せんだんの館 総合施設長)

舟越 正博 (社会福祉法人東北福祉会 せんだんの里 総合施設長)

土井 勝幸 (医療法人社団東北福祉会 せんだんの丘 施設長)

加藤 誠 (医療法人社団東北福祉会 せんだんの丘 統括部長)

大橋 雅啓 (全国・宮城県・福島県精神保健福祉士協会 / 東日本国際大学教授)

菊地 知憲 (宮城県医療ソーシャルワーカー協会 副会長 / 総合南東北病院)

小林 紀代 (宮城県社会福祉士会 理事 / 多賀城市保健福祉部子育て支援課 課長)

菅原 幸枝 (宮城県精神保健福祉士協会 理事 / 鹿島記念病院)

#### 【学内委員】

大島 巌 (副学長·教授) 阿部 利江 (社会福祉学科 講師)

佐藤 俊人 (福祉心理学科 准教授) 清水 冬樹 (社会福祉学科 准教授)

髙橋 誠一 (産業マネジメント学科 教授) 三浦 剛 (社会福祉学科 教授)

吉田 孝 (教務部 教務課 課長) 菅野 陽子 (通信教育事務部 課長補佐)

#### 【事務局】教務部 実学臨床教育推進室 [佐藤泰伸、山本美貴子、日下沙季]

総務部 PR課 [伊藤隆志、清水智彦、梅津正輝]/ICT支援室 [小山豪彦、横田順平] 広報·情報担当

# 第 7 回 TFU 実学臨床研究セミナー (阿部一彦教授最終講義) 障害のある人の社会参加と地域生活 資料集

発行日 2022年3月3日

主 催 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

共 催 総合福祉学部 社会福祉学科教員有志

編集・発行 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会事務局

〒981-8522 仙台市青葉区国見1丁目8番1号

TEL: 022-717-3359 FAX: 022-301-1293

E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp